

第 学年 組 学級活動学習指導案

家庭科など教科の場合は「家庭科学習指導案」と書く。
どの教科等で行うかは、指導目標によって異なる。

日時 令和〇年〇月〇日（△曜日）〇校時
場所 教室
指導者 T 1 教諭 ○○ ○○
T 2 実習生 △△ △△

- 1 題 材 学習内容が児童生徒にわかる、またはイメージできる書き方で表現する。
- 2 題材の目標（ねらい）
目標は三つの柱「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」から設定する。
- 3 題材設定の理由
 - (1) 題材観
指導者の立場で、題材を設定した必要性や理由を書く。
 - (2) 児童生徒観
学級での児童生徒の生活や実態、これまでの取組で育ちつつある状況を記述する。題材に関わる事前調査と考察などを入れる。事前調査をする場合は、授業で何がしたいか、ねらいに関することを調査し授業に生かす。
 - (3) 指導観
本題材の指導にあたっては、・・・
ねらいを達成するために具体的に何を以てどう指導するか、どんな力をつけたいか（どのように意思決定させるか）を記述する。また、事前や事後の活動についても、本時学習を効果的に進める観点から具体的に示す。
- 4 本時の指導と評価計画

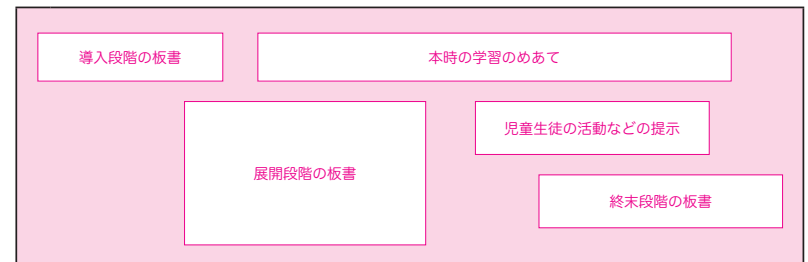
・本 時	児童生徒に示すテーマ	
・事後指導	給食時間における指導 等	実際には、学習指導要領の目標および内容をふまえて、各学校で定めた該当学年の評価を書く。
・評 価	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】	
- ・食育の視点 六つの視点から書く。
- 5 準備物 授業で使う教材やワークシートなど
(例) 紙芝居 野菜実物 はてなボックス ○○のグラフ ワークシートなど

■図 II-18 学級活動学習指導案様式

6 学習展開 指導観で書いたことを具体的に表したもの

	学習活動	教師の支援（○）と評価（☆）	
		T 1（学級担任）	T 2（実習生）
導入（つかむ）	子どもの立場で何をするのかを簡潔に記述する。	指導者の立場で書く。児童生徒の活動にそって、指導・支援の意図、重点、工夫、手だてなどについて留意すべきことを具体的に記述する。担任が指導しているときに栄養教諭が何をしているかもわかるように記述する。 学習活動と教員の指導・支援との関わりを対応させて記述する。 評価と目標は一体であり、いつ・どこで・どのような観点の評価をどのような方法で行うかを記述する（☆）。	
		めあて	
展開（さぐる）（みつける）	具体的に書く。 たとえば、問題を把握したり、原因を考えたりする活動、解決方法の工夫や個別の意思決定の場面など、導入・展開・終末の学習過程に位置付けて記述する。 ※文末の表現例 ～知る。 ～ついて話し合う。 ～調べる。 ～まとめる。 ～発表する。 ～気付く。 など	※文章表現の例 「○○する児童に対しては□□を△△するなどで◇◇を促す」など具体的な指導・支援がわかるように書く。 ※文末表現の例 ～雰囲気をつくる。 ～助言する。 ～の場を設定する。 ～を引き出す。 ～意欲を高める。 ～話し合わせる。 など	
終末（決める）			

＜板書計画＞



■図 II-18 学級活動学習指導案様式（つづき）